

ビオトープフォーラム in 横浜2021

— SDGs 生き物の豊かさを育むビオトープ —

実施報告書

日時： 2021（令和3）年10月22日（金） 13:00~17:00
場所： 神奈川近代文学館ホール（横浜市中区山手町110 港の見える丘公園内）
主催： 特定非営利活動法人日本ビオトープ協会 共催： 自然環境復元学会
後援： 環境省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、神奈川県、横浜市、
IGES 国際生態学センター（順不同）

◆フォーラム参加者 計 47 名

官庁・共催・後援関係 学生・学校関係者	9 1	名 名	環境団体関係 一般	1 9	名 名	協会員・BA※ ※ビオトープアドバイザー	27 名
------------------------	--------	--------	--------------	--------	--------	-------------------------	---------

◇総括

日本ビオトープ協会は、今年度で設立 27 年を迎えました。その間、神奈川県横浜市では 2014 年に「地域の自然と環境学習」をテーマにビオトープフォーラムを開催させていただきました。今年度再びここ横浜市で開催できますことは大変嬉しく、ご尽力をいただきました会員、関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

本年度のフォーラムテーマは「SDGs 生き物の豊かさを育むビオトープ」として、神奈川近代文学館ホールを会場に行いました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の状況をみて、やむを得ず中止・延期にし、本年度、感染対策を行いながら開催することができました。

フォーラムの司会進行は砂押一成関東地区委員長が務め、開会にあたり、櫻井淳会長よりご挨拶をいたしました。フォーラムが、県、市を始め地元諸団体等のご協力により開催できること、また、ご講演いただきます当協会代表顧問・神奈川県立産業技術総合研究所理事長・元横浜国立大学学長 鈴木邦雄先生、進化生物学研究所理事長・所長 湯浅浩史先生に謝意を表しました。また、今後も地域の自然環境の保全・復元・維持管理の現場で活躍する技術者・ビオトープアドバイザー養成に力を入れると共に、全国 860 名を超えるビオトープアドバイザーネットワークの充実を図り、日頃の研究に加え現場実践を通じて、SDGs・地球環境の保全に貢献する活動を力強く継続する事等が話され、会員の協力、顧問の先生方のご指導、関係各位のご理解ご支援に感謝の言葉を述べました。

開催にあたり諸官庁などのご後援をいただき、ご臨席いただきました神奈川県自然環境保全課長・広野信明様、横浜横浜市環境創造局みどりアップ推進担当理事・橋本健様に、ご来賓を代表してご祝辞を頂戴いたしました。

神奈川県の広野様より、当協会の、長きにわたり人と自然との共生を目指し、多様な生物の棲息・生育の場となるビオトープの保全、復元、創出に精力的に取り組んでいる事に対し高く評価いただきました。私たちの暮らしは、食べ物や水・空気など、生き物や自然からの恵みに依存しており、そのことを理解し、生物多様性を守り、その恵みを将来に引き継いでゆくことが大変重要になってきます。神奈川県は「かながわ生物多様性計画」を策定して推進していますが、必ずしも県民に良く理解が広がって居らず、市町村や個人、事業者など様々な主体が連携して推進する上において、本フォーラムは大変意義深いとの言葉を述べられました。

横浜市の橋本様より、当協会における、SDGs の達成に大きく貢献するとともに、人と自然との共生社会の実現につながる取組に対し高く評価いただきました。また、横浜市は、「SDGs 未来都市」に選定され、環境分野では「豊かな自然環境と暮らしが共存する都市づくり」を目指していること、市民生活の身近な樹林地や農地などの貴重な緑を次世代に引き継ぐ為に「横浜みどりアップ計画」を策定して推進をしていること等について、ご紹介いただきました。

第 1 部では、「第 12・13 回ビオトープ顕彰」表彰式が行われ、ビオトープ顕彰委員会事務局長・野澤日出夫副会長からの審査報告と、櫻井会長から表彰状授与が行われました。引き続いて事例発表が行われ、「ヤンマーミュージアム」「ECO35」「タガメビオトープ」3 件のそれぞれの地域性を生かした素晴らしい活動事例が紹介されました。（事前に録画録音いただいた発表映像を流させていただきました）

（発表資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載、顕彰講評・受賞紹介：協会 WEB に UP、協会誌 49 号に掲載予定）

第 2 部は、鈴木邦雄先生より「SDGs が目指す生き物の豊かさ」と題して基調講演をいただきました。2030 年目標の SDGs が 2000 年に発効した MDGs の上に強化され、より具体的な 17 項目の目標として掲げられたこと。このゴールを達成するために、もっとも重要な環境に係る 4 つのゴール「陸の生態系」「海の生態系」「水の保全」と「気候変動に具体策」であること。この 50 年間の都市近郊里山環境の変容は大きく、個体数は大きく変わっていないが、外来種個体 7%であったものが、現在は 64%を占めていて大きく変化している。低開発国と先進国で生態系保全にも大きな差が生まれていて、全ての人類の豊かさの実現は必須である。子供たちの環境教育、将来世代の持続可能なコミュニティづくり推進の人材づくりによってのみ達成できることを強調されました。

続いて、湯浅浩史先生より、「世界の植物異変と気候変動」ー地球環境への警鐘を考えるーと題して特別講演をいただきました。地球温暖化環境影響は、大雨よりむしろ将来的には干ばつが深刻な問題になる。世界の多くの少雨乾燥地帯の事例が紹介されたが、そこで長年にわたり降雨が無く、乾燥に強い植物も子孫が残せず絶滅も危惧されている地域もある。また、水田の開発によって地下水水位が上がりバオバブの木が倒れた事例など紹介され、安易に自然環境の改変は影響が大きいことが示されました。

水資源に恵まれた日本に於いても干ばつが起こりうることは意識しておく必要があることなど、我々の活動に於いて示唆を頂きました。

(講演資料：別紙フォーラムレジュメ資料集に掲載)

閉会の辞は、野澤日出夫副会長よりフォーラム参加者と関係者への謝意が述べられ閉会しました。このフォーラムを通じて、地球温暖化による環境、特に我々の関わる生物圏の変容の中で、生物多様性社会・いのちを知る環境学習・持続可能なコミュニティづくり等の重要性を再認識し、当協会の役割と責務の大きさを改めて実感いたしました。今後も自然との共生をめざした活動を推進し、持続可能な地域づくりに貢献して参ります。

最後に、皆様のご協力に対し心より厚くお礼申し上げます、今回得られた知識・技術を各地で生かして活動されますことを祈念申し上げます。

2021年10月吉日

ー別紙レジュメ資料集の通り、盛会にて終了いたしましたー

<後日、編集した映像をオンライン配信する予定、詳細は協会WEBページにUPいたします>

「ピオトープフォーラム in 横浜 2021」の様子



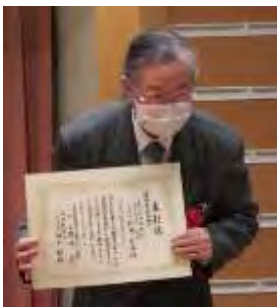
会長挨拶



神奈川県・横浜市 ご祝辞



司会：関東地区
委員長



第1部 ピオトープ顕彰 表彰・講評・事例発表



第2部 基調講演・特別講演

